



刊行2周年

2005年7月1日に創刊した「日精電機株式会社ISO14001News」も、刊行2周年、通巻第9号を迎えることができました。

当初は、編者の個人的趣味のような感じでスタートしたこのISO14001Newsですが、このNewsを利用して、社内の環境学習の幅が広がったのではないかと勝手に判断させていただいております。

今号は、刊行2周年特別号と題して、工場長、環境管理責任者より寄稿文をいただいております。

毎号2名、多いときで4名の方から環境に関する寄稿文をいただいておりますが、それぞれの特色ある環境感、環境雑学には感心させられます。

是非、業務にもその知識を生かして環境貢献いただくようお願いいたします。

さて、今号では5月中旬に実施された第2回更新審査を特集しました。例年似たような指摘を受けている感がありますが、次回審査時には指摘されないように努力していきましょう。

ところで、工場、各部署の環境目的・環境目標も例年同じような記述となっており、あまり変わり映えしていませんが、少しずつ目標を達成して目的を果たし、更に次なる目的を見いだせたら良いことだと思います。

本号のハイライト

P	項目	内容
1		刊行2周年
1	1	ISO14001活動について
2	2	刊行2周年 特別寄稿 赤羽根工場長 中山課長(環境管理責任者)
3	3	第二回 更新審査総括
4	4	学習コーナー 第1回
5~6	5	新・ISO14001 寄稿(第4回) 開発課：伴野主任 品質保証課：渡辺(環境管理事務局)
6~8	6	環境情報【こぼれ話】
8	7	佐久の環境(観光)名所 その1
8	8	会社からお知らせ

印刷配布：A.S.B.C.M.D.Q.J.K.E.M.R.E.M.Rs.EM 事CiKnNa (15部)、ネット配信：G.To



1. ISO14001活動について

◆7~10月期に実施する事項

・更新審査も無事終えて、2007年度の活動も中盤期に差し掛かろうとしています。毎月の定期点検は実施していますか？忘れないように点検願います。

ISO14001活動が円滑に行えるように下記日程を基準に実施していきましょう。

月	内 容
7月	事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検
8月	事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検
9月	事務局定期フォロー 設備・工程の定期点検 緊急事態への準備及び対応訓練 末日/EMPのまとめ(2007年度第二節) 半期の目的・目標の評価
10月	日精電機(株)第50期スタート ISO14001News 通巻10号発行 事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検 2007年第2回定期環境管理委員会

7、8月は月例点検以外の行事はありませんが、9月には緊急事態への準備及び対応訓練があります。

例年のことですが、検証したことによる記録はもちろんですが、手順書に不備等あれば見直しを実施するように願います。

また、9月は設備・工程などの定期点検の時期となります。各種測定事項はもとより点検項目に沿った点検実施をお願いします。

2. 刊行2周年 特別寄稿

刊行2周年を記念しまして、今号は赤羽根工場長、中山環境管理責任者に寄稿していただきました。

『報道の役割』

工場長 赤羽根 賢

私たち人間は好奇心に突き動かされて行動する生き物である。

幼児においては特に好奇心絶大で、それによって人間としての大きな成長が達成できる。

しかしその好奇心が大きな危険をも伴うために大人たちは、幼児から目を離すことができない。

大人になった私たちも、本質は同じである。好奇心があればこそ、人類の発展に貢献する発見や発明が生まれるのであり、みんなで大いに盛り立て支援していくことが必要であることは、言うまでもない。

しかし、ここにおいて大きな落とし穴があることも忘れてはならないのである。

好奇心に突き動かされ、国家間や企業間の競争に巻き込まれて、研究者や企業が果敢に目標に向かって努力を重ねている間に、その研究成果の内側に潜むマイナス面を見落としてしまいがちなのである。高度成長を続けてきた歴史の過程で、環境汚染問題、地球温暖化問題、資源の枯渇問題、核の拡散問題、等々後追いで取り組まなければならない問題を沢山積み残してしまっている。

このような問題を早めに警鐘を鳴らし、同時並行的に解決策を考えていくにはどうしたらいいのだろうか。

それに対する大きな役割は報道機関、マスコミが担っていると考えられる。

毎日の様に報道されている事件やトラブルが、そのことを教えてくれている。

そしてその働きを有効に機能させるためには私たちみんなが、技術の表側と裏側の状況に対する感受性を研ぎ澄ませておくことが必要である。

「ISO14001NEWS」も日精電機においてその様な感受性を刺激する良い効果があるように思っている。従ってその役割を今後も継続して担って欲しい。



『私のエコロジー雑感パート2』

環境管理責任者(営業部 課長) 中山 俊明

ISOニュース発行2周年ということで、またまた原稿を依頼されました。そこで前回に引き続き、「私のエコロジー雑感パート2」ということで、日々の生活の中で、感じたことを書いてみようかと思えます。

そこで、前回も登場した我が愛車に再登場してもらいます。実は6月に車検を取りました。もういいかげんにせよとの家族の強い反対を押しきっての暴挙？でした。車検費用はなんと、22万円でした。マフラー、ホイールベアリング、タイミングベルト等の部品を交換したためです。おかげで走行音が静かになり、もう1回車検をとろうかな？という気にもなっているところです。しかし、22万円の費用をどのように家族に説明したらいいのか？そこで次のように説明しました。ここで200万円の新車を買って、10年乗ったとすれば、年20万円の負担になるが、車検費用22万円といっても通常の車検費用より10万円多いだけなんだから年5万円の負担になり、ずっとエコノミーだし、廃棄物を出さないからエコロジーなんだよ。……と？

これを聞いた家族は、なんともいえない複雑な顔をして何も言いませんでした。

ここでふと気が付きました。

エコロジー = エコノミー なんですかね！？
 エコノミーといえば、先日、ある雑誌にディーゼルエンジン車の記事が載っていました。ディーゼルエンジン車といえば、黒煙をまき散らす公害車の典型のようなイメージがあり私も、ディーゼルエンジン車の後ろについたときなどは黒煙を浴びせられて幾度となく頭にきたことがありました。しかし今のディーゼルエンジン車はどうも違うようなのです。記事によると、ヨーロッパでは、商用車の96%、乗用車でも約54%がディーゼルエンジン車だということです。なぜかという燃費が良く、CO₂の排出量が少ないことが理由のようです。当然、粒子状物質、窒素酸化物も軽減されているとのことで、環境問題にうるさいヨーロッパでの話ですからディーゼルエンジン車に対する考えを改めるべきかもしれません。日本はハイブリット車で世界の最先端を走っていますが、ヨーロッパのメーカーはディーゼルエンジン車の改良で低公害化を進めたようです。コスト的にもディーゼルエンジン車のほうが有利なようで、日本のメーカーもこの事実を知り、遅ればせながらディーゼルエンジン車の改良に躍起になっているようですが、ガソリン価格が上昇している中、この先、どちらの方式がより普及するのか非常に気になるところです。

3. 特集 「第二回 更新審査総括」

- ・今年度の審査は、2回目となる更新審査が、5月10日と11日の2日間実施されました。審査機関は、登録機関である日本検査キューエイ（株）に依頼しました。審査員は、4年連続となる市村古廣氏によって審査されました。
- ・審査日程は以下の通りです。

5月10日 (木)	09:00~09:25 審査前会議	5月11日 (金)	09:00~10:30 設備課
	09:25~09:50 経営者面談		10:30~12:00 プレス係
	09:50~12:10 EMR・EM事務局		13:10~14:30 品質保証課
	13:10~14:30 製造課		14:30~16:00 営業課/経理課
	14:30~16:10 開発課		17:15~17:40 日毎会議/審査後会議
	16:10~17:05 管理課	今年度は、全9部門が審査を受けました	
	17:40~17:50 日毎会議		

・審査指摘事項

今年度の更新審査では、A/B指摘は無く、C指摘が8件ありました。

指摘された事項については、来年度の審査までには何らかの改善を検討し、実施できるものについては改善して運用したいと考えています。指摘事項を以下に掲載します。

NO	ランク	被監査部署	指摘事項	規格要求事項
lcy-01	C	製造課	教育計画書にある“不良低減作業、再生方法”については、OJTで実施していると伺いましたが、OJTの記録はないとのことでした。	4.4.2 これに伴う記録を保持すること
lcy-02	C	開発課	環境方針、目的及び目標から逸脱するかもしれない状況を管理するための手順書として、07.3.20に開発・設計業務手順が制定されましたが、この手順にはマニュアルで定める管理項目、運用基準、不適合が生じた場合の処理方法がどれであるのかが明確になっていません。	4.4.6 b) その手順には運用基準を明記する
lcy-03	C	開発課	マニュアルでは、教育訓練記録に保管期間は5年と定めていますが、開発課の上記記録を確認した結果、2001年のものが保管されていました。	4.5.4 組織は記録の保管機関及び廃棄の手順を確立し、実施し、維持する
lcy-04	C	開発課	マニュアルでは、要改善事項（C指摘）も、その根本原因の調査、是正処置の実施（再発防止）を要求していますが、技術部（開発課）での指摘（C指摘）を見る限り、手順書（この場合はマニュアル）が改訂されておらず、再発防止ができたのかが確認できません。	4.5.3 組織はいかなる必要な変更も環境マネジメントシステム文書に確実に反映すること
lcy-05	C	プレス係	キズ不良対策としてチェック表を採用していますが、そのチェック表は有効であったのか、更にどのようにすると有効性が向上するのかが等々チェックした事が確認できません。（小さなPDCAを廻す）。	4.5.1 パフォーマンスの適合を監視する
lcy-06	C	品質保証課	作業指導書を作成する人、それに基づいた訓練を行うトレーナー等について、環境影響の原因となっていないか、再検討下さい	4.4.2 著しい環境影響の原因となる作業をする人が力量を持つこと
lcy-07	C	品質保証課	品質保証課の作業者にインタビューした結果、作業者が現在行っている“規定された手順”がどれであるのか、又、作業者が示したJIS抜取基準表が、どの手順に引用されているのかを示してなく、自覚教育が適切に行われていることが確認できません。	4.4.2 組織で働く人々に次の事項を自覚させる手順を確立し、実施し、維持する d) 規定された手順…

NO	ランク	被監査部署	指摘事項	規格要求事項
lcy-08	C	営業課/経理課	用紙削減の目標(130,000枚以下)の計画を立てていましたが、その達成手段の妥当性を再検討下さい。(前年も同様の目標を持ってやって来ているので、ここらで新たな現状分析をやらないと減らすことは無理ではないのか)	4.3.3 目標を設定し、レビューする

・次年度は定期審査(第5回)となりますが、今年度指摘された事項については各部署で改善検討して対応をお願いいたします。

また、記録に関してですが現在我々が作業していること、そのものがISO14001の改善活動だという認識において個人への作業指導についても忘れずに記録をお願いします。

4. 学習コーナー 「環境マニュアル」の解説 - 第1回 -

外部による定期/更新審査の都度思うことがあります。審査員は何故に当社のマニュアルをそこまで理解しているのか?。というよりは、我々以上に環境マニュアルを理解し把握している。そんな疑問と無念(残念)さが毎年の審査で感じられるところである。一方の我々といえば、自分たちで管理・運用すべきマニュアルであるにも関わらず、「それは、実施していない」とか「記録していない」。果ては「知らなかった」なんて人ごとみたいに言っている。それでいいのか?! いや、良くないでしょう。

以前審査員に言われた言葉を思い起こすと、

「審査員のためにISO活動するのではなく、自分たちが環境をよくするためにISO活動をしてください」
そこで、今回より「ISO学習コーナー」を立ち上げ、当社の環境マニュアルを勉強してこうと思います。

第1回となる今回は、目次に沿って「1. 総則」「2. 適用範囲」「3. 規格及び定義」までを講義します。マニュアル本文の文章はなるべく割愛し、説明のみを掲載していきます。解説対象は、改訂17版です。



1. 総則

1. 1 目的 : この項において、当社の環境活動に対する目的を記述しています。
1. 2 会社概要 : 会社概要については現在10項目を掲載しています。

2. 適用範囲

2. 1 物理的範囲 : 当社のEMS(「環境マネジメントシステム」の略)に対する構内(敷地内)における物理的対象範囲を説明しています。(付図2としてマニュアルに図面を掲載してある)対象となる範囲は、本社工場の敷地内です。
2. 2 業務の範囲 : EMSに対する業務における対象範囲を説明しています。範囲は、開発・設計業務から各製造(モタ、プレス、設備)、検査、出荷とそれらに係わる間接業務までを対象としています。
ISO14001の認証対象となるのは本社のみで、別工場(中込)、支社(東京)、別法人の工場(千久水、小諸)などはEMS範囲でない説明を記述しています。
2. 3 協力会社 : 当社内には協力工場は存在していません。2.2項での別工場、支社、別法人工場及び協力会社、委託業者に対してはEMS要求事項を伝達する。
2. 4 他システムとの関係 : 職場環境に関する事項については、安全衛生委員会で管理し、緊急事態に関する組織、実施事項については「防災管理規定」の一部を引用する。安全衛生に関しては、「安全衛生管理規程」が新規に策定されたので、次回見直し時にはこの規程を記述する必要があります。

3. 規格及び定義 : マニュアル本文の規格は「JISQ14001:2004」に沿っています。
用語として、当社独自の用語をマニュアルに掲載していますが他は規格に沿っています。

以上までが当社の環境マニュアルの基礎となる部分です。

一度に多く詰め込むと忘れてしまいがちですので今回は以上です。

次回からは、実際の運用する部分(4. 環境マネジメントシステム要求事項)を説明します。

5. 新・ISO14001寄稿(第4回)

従業員各位からISO14001での活動状況やISOや環境について思うことなどを寄稿掲載するコーナーです。

今号は、開発:伴野主任、品保:渡辺氏に寄稿していただきました。

『不良削減について』

開発課主任 伴野 正毅

今回寄稿文を書くにあたり、ISO14001の目標の一つである不良削減について私なりの考えを述べさせて頂きたいと思います。

会社設立時より今日に至るまで、様々な努力や創意工夫により多くの不良問題を解決してきたことと思います。しかし、現在も人為的なミスによる不良が多発しており、以前と比べ個人の技術力が低下しているという話を社内で耳にすることがあります。

実際に技術力が低下しているかどうかは私には判断できませんが、ユーザーの品質やコストまた納期に対する要望は年々厳しくなっています。多くの工程で人の手による作業が行われている日精電機の場合、今まで以上に個々の高い技術力が必要となっているのが現状ではないでしょうか。

技術力の向上は簡単にクリアできる課題ではありませんが、その手段の一つとして、個人のスキルアップを図る勉強会や実践的な作業講習会を定期的に開くというのはどうでしょう。

その中でも特に、半田付け作業に関する講習会は必要だと思います。

最近でも協力工場による鉛含有半田の使用、他にも導通不良、断線等、毎年何件もの半田不良が発生しています。

不良発生の際に作業指導し、一時的には改善しても期間を空けて同じ不良が発生していることも多いように思われます。決して作業指導方法を否定するものではありません。しかし、日精電機、関連会社、協力工場全体でもう一度基本から勉強し直す機会が必要ではないでしょうか。

社内で部署を問わず技術をもった方々、協力工場の高い技術を持った方々に指導していただく他に、外部から専門の講師を招いたり、外部機関の講習会へ参加するなどの機会をぜひ作るべきと考えます。

今回、ハーネスの加工を担当している事から、他業者の半田加工品を見せて頂きましたが、仕上がり状態からその会社の高い技術力を感じました。中川電機製作所や日精電機の半田加工品も良品レベルですが、実力差は明らかでした。

もちろん半田材、作業工具等違いはあると思われると思いますが、自分達だけでは得られない、より高い技術力をもった外部の力を借りることも必要ではないかと考えます。

また、参加者のスキルアップへの意識の持ち方でこの講習会はより有意義なものになると思います。半田付け以外の作業やモータに関する知識、パソコン関連などの勉強会も順次行う機会を作り、個人のスキルアップを図っていくことが、今出来る不良削減への一番の近道であると考えます。

『地球温暖化』

品質保証課 渡辺 秋男

何年前かにNHKで、「エベレストの氷河湖が決壊する」という番組が放送されていた。その時は、身近なところではないのであまり関心を持たなかった。

日精電機でISO14001を取得してからは、環境に関して気になり始め、最近氷河湖のことが放送されていた。エベレストにある氷河が溶けたあとに水が溜まり、大きな湖が出来ている。その氷河湖の水位がどんどん上がり、堰き止めているのは氷河が運んできた土砂と溶けずに残っている氷だそうです。決壊すると、水だけでなく土砂や石や氷河の一部が土石流になって近くの村や町や都市部の人々に影響がでるそうです。6月に沖縄や九州が25～27℃ぐらいだったのに、北海道で33℃まで温度が上がっている。同じ時期に、パキスタンで52℃という考えられない温度が観測されていた。アメリカで目立っている竜巻も、温暖化によるもので以前より大型化や回数の増加になっている。先日ニュースで中国が、大気汚染等によって癌が増加していると放送されていた。世界各地では、氷河湖の他に動植物の生態系変化・異常高温・洪水等ここには挙げられないほどの異常現象が起きています。一人ひとりが自分には、何が出来るのか考えることとそれを実行することが重要です。

日本の目標である、温室排気ガス排出量6%削減を実現するためのアクションプランがあります。

「チーム・マイナス6%」のCO2削減のためのアクションプランです。

- ①冷房は、28℃に設定しましょう。(温度設定で減らそう。)
- ②蛇口はこまめに閉めよう。(水道の使い方減らそう。)
- ③エコ製品を選んで買おう。(商品の選び方で減らそう。)
- ④アイドリングをなくそう。(自動車の使い方減らそう。)
- ⑤過剰包装を断ろう。(買い物とゴミで減らそう。)
- ⑥コンセントからこまめに抜こう。(電気の使い方減らそう。)

〔次ページへ続く〕

CO2削減の為に、自分が知っている一例を挙げたいと思います。

現在日本サッカー協会で、芝生の推進活動を行い、30校ほどの小中学校の校庭やグラウンドがコンクリートや土から芝生になっています。芝生は、二酸化炭素の吸収と酸素の放出を効率的に行うことや周辺の大気を浄化し、地球温暖化の防止にも一役買える存在です。こんな話を聞いたことがあります。とある町の校庭やグラウンドを芝生化に出来ないか相談したら「子供たちが泥遊びが出来なくなる」「維持管理が大変」と言われたそうです。芝生には、温暖化防止以外に怪我しにくい・適度の湿度で風邪を引きにくい等の効果も上げられます。その他にも、外で遊ぶことが減った子供たちにも寝ころんだり転げまわったりしたくなるなど、心身の発達やコミュニケーションの場としても期待が出来ると思います。例に挙げたような大きなことをやろうとすると、なかなかうまくいきません。今自分達が地球温暖化防止で、小さなことで出来るものがたくさんあるはず。まずは、一人ひとりの行動やライフスタイルの見直しをしてみましょう。小さなことでもちょっとした無駄をなくすような努力をしましょう！

6. 環境情報【こぼれ話】

①世界の人口 ii

世界の人口は、昨年2006年2月25日に65億人に達した（アメリカ合衆国統計局発表）。

人類誕生から世界人口は長く緩やかな増加を続けてきたが、19世紀末から現在に至るまで「爆発」と呼べるほどのスピードで急増した。世界人口は、西暦0年頃に約1億人（推定）だったが、10世紀には約2億人（推定）に増え、その後20世紀初頭には15億人にまで増えた。それから約100年後の現在は65億人に達した。（100年前の約4倍の人口）

人口爆発の要因は、①産業の発達、②食生活の変化、③医療の発達、④都市化などが挙げられる。

●人口爆発による問題点

1. 食糧不足
2. 住宅不足
3. 用水不足
4. 雇用不足 など

世界人口推移
(予想)

年	人口 (億人)
2006	65
2010	68
2020	76
2030	82
2040	87
2050	91

▼日本での人口減少問題

1. 少子化（→ 未婚、晩婚化）
2. 過疎化（→ 都市化）
3. 高齢化（→ 労働力不足）

*世界で増加している人口も、日本では減少している。上記したが、減少には様々な要因があり、それぞれが複合している。これからの日本に不安が残るが、環境の劣化も一つの要因と思われます。後世により良い環境を残していくのが我々の努めなのかも知れません。

参考資料:フリー百科事典「Wikipedia」

②イースター島の人口爆発と森林破壊

①の人口爆発と減少は、ある島で例としてあります。

1. イースター島の地理

太平洋上に浮かぶ小さな島。イースター島。正式名は、スペイン語で「バスクア島」という。

現在は、チリ領となっている。チリの首都サンティアゴから西へ3,700km。島の全周60km。面積は180平方km。現在の人口は、約2,800人。

2. イースター島の歴史

4世紀頃から、同じポリネシアのマルケサス諸島から渡ってきた人が、イースター島に暮らすようになったといわれている（年代については3世紀から9世紀まで諸説あり、はっきりしていないらしい）。

化石や花粉の研究から、当時のイースター島は、世界でも有数の巨大椰子が生い茂る、亜熱帯性雨林の島であったと考えられている。

10世紀頃から、モアイの製作が始まる。当時彼らの作ったモアイや墳墓、石碑など考古学上極めて重要な遺跡が数多く残されている。人口も増加し、最盛期では1万5千人を超えていたと見られる（人口についても6千人から3万人まで諸説あり）。

その後、モアイ製作やカヌー製造、農耕の拡大などで伐採が進み、島全体から森林が消えてしまう。その結果、表土が流出し、農地は荒れ果て、また木材が不足してカヌーの生産にも支障が出たことから大規模な飢餓が発生。そのためもあり、16世紀から17世紀にかけて部族間の紛争が起こり、モアイの破壊合戦が起こる（一説ではあるが、耳長族がモアイの製作を行っていた耳短族に無理な要求を行い、それに反発した耳短族との間で、モアイ倒し戦争が勃発したと伝承されている）。この時代、人口は激減し、伝承によれば人肉食さえ横行していたとされる。

1722年、オランダ海軍提督、ヤコブ・ロッセフェーンが発見。発見した日がイースターであったため「イースター島」と名前が付いたといわれている。1774年には、イギリス人探検家ジェームス・クックも上陸している。クックの上陸当時は、島のモアイの半数ほどがまだ直立していたという。なお、伝承では1840年に最後のモアイが倒されたとされる。18世紀から19世紀にかけて、住民らが奴隷として連れ出されたり、外部から持ち込まれた天然痘が猛威を振るったりした結果、島の人口はさらに激減し、先住民は絶滅寸前まで追い込まれた。1872年当時の島民数は、僅か111人であった。

1888年、チリ領となる。

3. まとめ

信仰と争い、そして外部からの侵略によりイースター島は短い期間で栄枯盛衰を体験した。

一つの島での出来事ではありますが、それが今後の地球の姿になるかも知れません。

参考資料:フリー百科事典「Wikipedia」

③カエル絶滅の危機を救え！

2006年12月国内で飼育されているカエルから「ツボカビ症」が検出された。続く2007年3月には、沖縄県のペットショップで販売されているカエルからカエルツボカビが確認された。これを受けて沖縄県内のペットショップの中にはカエル類の入荷・販売を自粛する業者も出てきている。

2007年6月10日「野生のウシガエルからツボカビへ感染している事を確認した。」と麻布大で開催されたフォーラムにて発表され、全国のペットショップや研究機関などへ警戒の呼びかけをはじめた。また、「検査をした両生類の固体は30匹で、同大が所在する神奈川県内で捕獲したウシガエル10匹のうち、4匹で感染を確認した。」と発表があった。

ツボカビ症とは両生類の新興感染症で、ツボカビ門に属する真菌の、カエルツボカビ (*Batrachochytrium dendrobatidis*) が原因である。ツボカビ類は土壌や淡水中に生息し、分解菌あるいは腐生菌としてキチン、セルロース、ケラチンといった分解しにくい物質を利用する。両生類の皮膚に寄生する。

世界の両生類 5,743 種のうち、120 種が 1980 年以降に絶滅したと推測され、さらに 1,856 種 (32%) は絶滅のおそれがあるとされている。このような急激な絶滅を加速させている原因の一つに、ツボカビ症があげられている。現在、ツボカビは IUCN (国際自然保護連合) による外来生物ワースト 100 にもリストされ、世界的な監視が必要とされている。

両生類のツボカビ症は、致死率が高く (90%以上)、伝播力が強いために世界中で猛威をふるい、すでにオーストラリアや中米の両生類が壊滅的な打撃を受けている。パナマでは、ツボカビが侵入してから2ヶ月の間に生息群が全滅したという報告もある。毎年 28km の拡散がみられ、ファウナ (動物相) の 71% にあたる 48 種の感染が確認されている。

野外における防除方法は確立されていないため、野外遺棄が起こると、根絶は不可能である。オーストラリアでは輸出入検疫を強化し、国をあげて対策に取り組んでいる。

さてさて、カエルの鳴き声はいつまで聞けるのか？
田んぼからカエルの声が聞こえなくなる日が来るかも知れないと思うと寂しいものではないでしょうか？



麻布大学のHPに詳しい解説があります。

<http://www.azabu-u.ac.jp/index.html>

参考資料:麻布大学HP、フリー百科事典「Wikipedia」、WWF

④気になるNewsから 「相次ぐ食品偽装」

(安全衛生・品質関連情報)

2007年は、食品業界にとって最凶の年となりそうである。我々はいったい何を信じて食品を購入すればいいのか？ 賞味期限の改ざん。違う材料の混入。産地偽装。等々記憶にある食品関連事件は以下に挙げられる。

- 2000年 ミスターナッツが無許可添加物使用発覚
- 2001年 雪印食品の牛肉偽装発覚
- 2002年 日本食品の牛肉偽装発覚
日本ハムの牛肉偽装・隠蔽発覚
- 2003年 下関市 フグ産地護送発覚 (三重県産だった)
- 2004年 大手牛肉卸業者 産地偽装発覚 (補助金詐欺)
讃岐うどん偽装表示発覚 (小麦粉産地)
ハンナンの牛肉偽装発覚
- 2005年 アサリ不当表示 (北朝鮮産を国内産偽装) 発覚
- 2006年 日本ライスの産地品種銘柄偽装発覚
- 2007年 不二家の賞味期限偽装発覚
ほっかほっか亭 (本社:ブレナス) の
賞味期限切れサラダ販売発覚
ミートホープの牛肉偽装発覚
千葉県米卸業者の産地偽装 (外国米を国産) 発覚
北州食品の期限切れ冷凍マグロ使用発覚

編者の独自調査によるものなので、まだまだ隠れた食品偽装事件はあるかも知れません。

しかし、多すぎると思いませんか？

最近、マスコミメディアで取り上げられている事件といえば、ミートホープ社による鶏肉や豚肉、カモ肉を混ぜた牛ミンチ偽装事件ですが、この会社、実は他にも外国産牛肉が混入したひき肉を国産と偽るなど、20年以上前から社長の指示のもと不正が常態化していたことが分かりました。製造された牛ミンチは、コロケなどに使用されて全国のCO・OPなど販売されていました。いまでは、当たり前前の材料や産地などのパッケージへの表示の適正さは完全に無視されていたということになります。困ったものでは済まされない問題です。

食品メーカーは何故、偽装するのか？

この点は、業種によって様々な原因があると思いますが、1番はコスト削減が大きな要因でしょう。安く、大量に、いち早くを売り物にしている食品業界では避けられない課題となっているに違いありません。しかし、一歩間違えれば食中毒や感染症などを起こしかねない食品ではあるのに、問題を起こした会社は慢性化した偽装体制が感覚を麻痺させ、いつのまにか偽装が当たり前前の正常化状態に陥っていたのかも知れません。

食品パッケージの表示も信用できません。今後は何を信じて (信じて) 購入したらいいのでしょうか？

参考資料:フリー百科事典「Wikipedia」、yahoo!ニュース

⑤小海線に世界初 ハイブリッド車両登場！

J R 東日本が開発したバッテリーとディーゼルエンジンを組み合わせて走る低燃費・低公害の「ハイブリッド列車」3両が、今月末より小諸駅（長野県小諸市）と小淵沢駅（山梨県北杜市）を結ぶ小海線で世界初の営業運転を始める。

列車は屋根の上に大型バッテリーを装備。モーターで発車し、駅を離れるとディーゼルエンジンを起動、最高時速約100キロまで加速する。減速時にはモーターを発電機として使い余分なエネルギーを電気に変換、バッテリーに蓄える。

従来のディーゼル車より約10%燃費が向上、窒素酸化物（NOx）や粒子状物質を約60%削減できるという。また騒音も大幅に抑えられる。

車体は銀色で、ドアや側面の一部は黄色と青に塗られている。

地元で走る列車なので皆さん見られる機会が多いと思います。次回までには走る光景を写真に収めて News に掲載できるようにしたいと思います。

参考資料:yahoo!ニュース

7. 佐久の環境(観光)名所

名所案内を環境(観光)にちなんで紹介します。

第1回となる今回は、編者地元の平尾山です。

その1 「平尾山」(上平尾)

平尾山は佐久市のほぼ北東部にあり、御代田町との境に位置する。標高1155.5m。平尾富士、白山、秋葉山からなり、平尾富士には、富士浅間神社がある。

戦国時代には、平尾氏の築いた平尾城が秋葉山にあった。また、麓には守芳院、平尾大社等の寺社があり、桃、ブルーベリーなどの果樹農園業も盛んに行われている。安原地積にある紅雲台は、桃の花にちなんで名付けられた。

ところで、平尾山といえば上信越高速道路直結のスキー場「パラダ」などからなる平尾山公園として1994年10月にオープンしている。同公園には「カブトムシドーム」と呼ばれる昆虫育成施設もあり、秋には「平尾山もみじ祭り」も開催され毎年大勢の来場者でにぎわっている。

2007年4月14日、平尾山が林野庁と厚生労働省の共同プロジェクトである「セラピーロード」に認定されました。

「森林セラピー」とは、森の癒し効果を活かし、健康増進やリハビリテーションに役立てようとするもので、今後は春日温泉等との連携により森林浴と温泉浴をセットにした「セラピーロード」として平尾山と春日温泉周辺を整備していく予定があります。

長野県には、「森林セラピー基地・セラピーロード」として5箇所(佐久市、南箕輪村、上松町、信濃町、飯山市)が認定されています。

参考資料:長野県HP、佐久市HP、平根村史

8. 会社からお知らせ

会社ホームページにて「腰痛予防 らくらくエプロン」と、新たに掲載しました「発電機 キット」が閲覧できます。

ホームページURL

<http://www.nissei-motor.co.jp/>

7月1日(日)工場団地親和会主催のソフトボール大会に参加しました。8社10チームが参加しました。

当日の朝は薄曇りでしたが、試合時には快晴でした。

開催場所：浅科グランド(佐久市塩名田)

対戦相手：東芝電池(昨年と同じ)

結果：0 - 17 で敗退

◆今年の大会には選手として大勢参加していただきました。

ありがとうございました。

応援に駆けつけてくださった方もありがとうございました。

☆次こそ勝利するぞ！を合い言葉に、練習を早くから始めたいと思います。こぞって練習に参加願います。

◆次号予告◆ 2007年第4号(通巻10号)10月発行予定

★ 通巻10号記念特別企画

★ 新・ISO14001寄稿(第5回) などなど

編集後記

◆今号は、予定していた発行日(11日)から大幅に遅れてしまいました。その分、濃く質の高い記事内容にしようと努力しましたが、どうだったでしょうか？

ISO14001Newsも号を重ね次回は通巻10号となります。何か趣向を凝らした内容にと考えていますが、どうにもこうにも特別寄稿ぐらいいか思い浮かばず悩んでいます。

10月には当社は50期目の創業へ突入します。ここまで、長く険しかった道のりではあったでしょうが50期という節目を迎えます。(そうですね、50期突入を記念して何か記事として書けるかもしれません！)

◆最近ガソリン価格がどんどん上昇しています。ひと昔前までは100円を割っていた価格もいまや140円台となってしまいました。また、鉄などの鋼材の価格も上昇していて、北京オリンピックの開催準備に沸く中国の影響が強くなると思います。

北京オリンピック終了後には以前の価格に戻るのでしょうか？消費者としては不安が残りますが、とりあえずは2008年の北京オリンピックの成功を祈るばかりです。

◆新コーナー「佐久の環境(観光)名所」ですが、市内はもとより佐久地方の名所を紹介していこうと思います。紹介したい、紹介してほしい名所がありましたら編集者までお願いします。

企画・作成・編集：武者 弘文(副環境管理責任者)

発行責任者：中山 俊明(環境管理責任者)

発行：日精電機株式会社 ISO14001 環境管理事務局

お知らせ ISO14001 News は、季刊紙です。四半期に1度、4/7/10/1月に発行します。